

平成 26 年度 第 2 回栄養学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事録

- I 日 時： 平成 26 年 8 月 30 日（水） 14：00～16：00
- II 場 所： 私立大学情報教育協会 事務局会議室
- III 出席委員： 武藤 志真子(委員長)、石崎 由美子、市丸 雄平、酒井 映子、
原島恵美子、中川 靖枝
- 欠席委員： 室伏 誠
- 事務局： 井端 正臣（事務局長）、森下 幸平

IV 資料

- ・資料① 栄養学教育におけるアクティブ・ラーニングの事例研究 開催要項
- ・平成 26 年度 第 1 回栄養学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事録
- ・参考 1 アクティブ・ラーニングの実質化に向けて アクティブ・ラーニングとはなにか
長崎大学 大学教育イノベーションセンター教授山地 弘起
- ・参考 2 「学ぶ」から「できる」へ ～経営系科目のアクティブ・ラーニング～
長崎大学 経済学部教授 西村 宣彦
- ・その他 委員会名簿：委員長以下上記 6 名

V 検討事項

1. 栄養学教育におけるアクティブ・ラーニング実践事例研究対話集会の企画について
2. 対話集会に向けた今後の進め方について
3. その他

VI 議事内容

1. 栄養学教育におけるアクティブ・ラーニング実践事例研究対話集会の企画について
- 1) 事務局から、8 月の 4 分野対話集会実施結果の概要報告
 - ① 参加者数：10 名～20 名＋委員で合計 20～30 名程度である
 - ② 参加者特性：大学から言われて勉強のため参加した等、参加者のアクティブ・ラーニングに対する理解や、具体的な取り組み意識が低い参加者がある。
 - ・このため委員会としては、対話集会の進め方・展開のストーリーを予め、しっかり想定していないとうまくいかず、分野のアクティブ・ラーニング研究の特徴がでない。
 - ・事務局と委員会で対話集会の流れ、ストーリーを十分に打合せしておく必要がある。
 - ③ 集会の展開方法：話題提供者の発表が長いと、意見交換は質疑応答で終わってしまう。
できるだけ発表は短く、意見交換を十分に取り、対話となるようにする。
 - ・当日は早めに集合して入念な打ち合わせ、準備、ストーリーができていないと
話題提供の発表者に流され、委員会として企画した意図が出せない。
 - ・応募してきた発表については、情報教育の内容にならないよう、事前に委員会のストーリーに合った内容かどうか十分確認する必要がある。

2. 対話集会に向けた今後の進め方について

1) 上記報告を踏まえて、改善のため以下を修正する。

- ① 参加者には、意見交換をスムーズに行うため、申し込みの際に今回の配布資料①の開催要項にある参加申込書のフォーマットを修正し、「今回のアクティブ・ラーニング研究対話集会に期待すること」を記入いただく。
- ② 当日発表者の資料は配布しないので、話題提供の資料は開催の3日前でなく、1週間前に掲載し、事前に見ていただく。

3. プログラムの検討

司会進行 原島 恵美子委員に決定

(1) 14:00～14:10 (10分) 武藤委員長の開催趣旨説明とこれまでの研究の経緯の報告

- ・委員会としての学士力の検討、教育改善モデル（アクティブ・ラーニング）の検討について報告する。

(2) 14:10～15:00 (50分) 様々なアクティブ・ラーニングの取り組みに関する話題提供

① 「地域の健康課題を抽出して栄養学的に対応を考えるグループ型授業」

香川 雅春 氏 （女子栄養大学 栄養研究所 准教授）に決定

② 「地域と連携した食育弁当に取り組むフィールドワーク授業」

酒井 映子 氏 （愛知学院大学 心身科学部 教授）に決定

③ 「参加者による話題提供」

- ・アクティブ・ラーニングで工夫されている例について話題提供の申込があれば委員会メールリストで可否を検討する。

(3) 15:00～15:50 (50分) 意見交換 中川靖枝委員、石崎由美子委員、室伏 誠委員が進行役に決定

(4) 15:50～16:00 (10分) 課題整理とまとめ 市丸雄平 委員に決定

4. その他